

DEC 9, 2021

The Straits Times

Tommy Koh

Singapore left out of summit because US doesn't see it as a democracy

<https://www.straitstimes.com/singapore/politics/spore-left-out-of-democracy-summit-because-us-doesnt-see-it-as-one-tommy-koh>

(StraitsTimes はシンガポールの一般紙。ストレーツはマラッカ海峡を指します)

はじめに

この程、シンガポール市内で、駐米代理大使の経歴を持つベテラン外交官 Tommy Koh 氏の著書「シンガポールから見た米国」の出版記念講演会が開かれた。講演会は、フロアの有識者から発言が相次ぎ、期せずして真剣な討論会となった。

トミー・コー元特使は、レクチャーのなかでこう語った。

コー氏の発言

シンガポールは、米国が招集した 110 カ国の民主主義サミットに招待されませんでした。

なぜなら、米国の民主党がシンガポール共和国を民主主義国として受け入れたことは一度もないからです。

まず、米国が都市国家という国家のあり方を軽視しているということです。

そしてもう一つは、この会議が当初から世界の分裂を前提した会議だということです。

2日間のバーチャル会議は、“より自由で開かれた社会”の推進にあったはずですが、それを米国が推進しようという話だったのです。

しかし最初から中国とロシアは排除されていました。オブザーバーにすら招待されていません。

このような不寛容な自由とは一体何なのでしょう。

中国とロシアは権威的で独裁的な国家と位置づけられ、いま、世界の民主主義の闘いが直面する敵と捉えられています。

しかし、そもそも、米国の国内では民主主義そのものが、さまざまな挑戦に直面してはおりませんか。

トランプ前大統領は、選挙での敗北を認めることを拒否しました。そして、1月にはトランプを支持する者がトランプの呼びかけを受けて連邦議会を襲撃しました。

これぞ前代未聞の反民主主義的事件です。

マンスール米代理大使の釈明

講演の後のコメントをもとめられて、米代理大使ラフィク・マンスールは、「民主主義サミット」の目的について次のように述べている。

我々は世界的に民主主義を広げるつもりです。それは我が家（米国）でも始まることになるでしょう。

我々は非難を応酬するのではなく、取り組みや経験を交流したいと思います。なぜなら民主主義というのは、タフでハードな任務だからです。

コウ元特使からシンガポール不招致の理由を問われたマンスールは、「招待できる数は限られている」と答えた。

それは先週、米国国務次官補の東アジア太平洋問題担当ダニエル・クリテンブリンクが答えた中身を繰り返したものである。

そしてマンスールはこう付け加えた。

この決定は、米国とシンガポールとのパートナーシップの深さと広さを正しく反映したものではありません。民主主義についてシンガポールから学ぶことはたくさんあります。

米国擁護発言とコー教授の反論

ニューヨークの国連常駐代表だった元外交官のカウシカン氏が、米国を弁護してフロア発言した。

米国はシンガポールを「共和国」としては招待しなかったが、その他の面では「大いに支持」しました。

しかし、コー教授はそれに反論した。

シンガポールは、

- * 選挙権の付与、自由で公正な選挙の定期的な実施、
- * 基本的な自由と権利を保護する憲法の制定、
- * 独立した司法および法の支配。

など、民主主義の基本的基準を完璧に満たしています。

留意すべきは、民主主義には単一のモデルはないということです。シンガポールの政治スタイルも、シンガポールならではのユニークな特徴を数多く備えています。

おそらく米国の目には、こうしたシンガポール・スタイルの民主主義は真の民主主義ではないと見たたのではないでしょう。

チャン教授のフロア発言

1996年から2012年にかけてシンガポールの駐米大使を務めたチャン教授は、次のように述べた。

民主主義サミットは明らかに良い考えではなく、招待された国のいくつかは眉をひそめる選択肢です。

米国は、中国とロシアの「人権侵害」とされるものに反対を表明しています。しかし、パキスタンやブラジルのような国々は、同様の批判に該当するにも関わらず招待されているのです。

コー教授の締めくくり発言

コー教授は、民主主義、人権、個人の自由を促進するという米国の主張の真意を理解する必要があると述べた。

多くのアメリカ人は、それがほとんど彼らの神聖な使命だと感じています。

これに関してはカウシカン氏も、コー教授に異議を唱えなかった。

アメリカ人は、彼らの魂を祝福します。それは発作的なものであり、彼らは定期的にこの発作を繰り返します。

そして、そのことを知っている私たちは、これらの発作にもかかわらず、依然として彼らを愛しています。
